

安心安全な暮らしの実現を目指して

地域との連携や周辺環境の情報告知等、建設業ができることを最大限活かした活動、安心安全な暮らしの実現が1歩進む、そのような取り組み事例を紹介します。



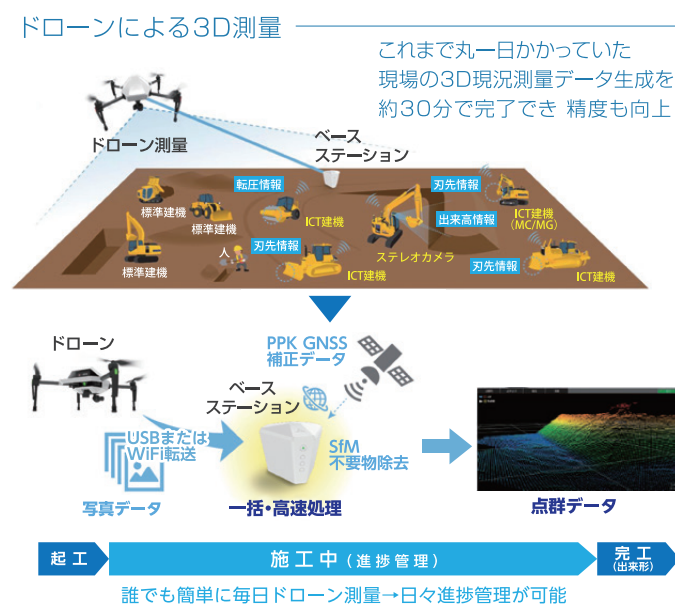
災害復旧に関するDX化、生産性向上への取り組み

近年の自然災害は、地球温暖化の進行などにより、大規模化・激甚化しています。インフラの被災は、そこで暮らす人々の生活基盤を壊してしまうため、迅速な対応や早期復旧が望まれます。

そこで、当社では災害復旧工事にドローン測量などのICT技術を積極的に導入し、工期短縮、リアルタイム計測などに努めています。

またこういった災害復旧工事で使用した計測システムやノウハウを通常工事にも活用することで、工期短縮やそれにとまなう脱炭素化にも貢献しています。

ドローンによる測量は現場全体を短時間でカバーするため、多数の建機や人が作業する施工現場でも、工事全体の施工進捗管理および土量管理を日々簡単に行うことができます。



BCP対策・震災対応訓練

2022年9月、本社・本店管轄事業所及び作業所において「十勝沖を震源とする震度6強の地震(札幌市近郊で震度6弱を観測)」の発生を想定した震災対応訓練を実施しました。

訓練では、Biz安否確認アプリを用いた安否確認や災害対策本部の設置・参集訓練、また、各事業所と工事作業所の被災状況確認や報告訓練ならびに停電時対応などの震災対応初動訓練を行いました。

さらに、建築復旧班は工事作業所における二次災害の危険がある場所への立ち入り禁止措置や負傷者の搬送訓練を実施し、災害対策本部では新しい試みとして、本部長および各班長の不在時を想定して、代理者を任命し、被災状況確認や報告訓練を行いました。その他、学校改築中の工事作業所では、建築復旧班とリモートにより被災状況を共有し、支援物資の要請を行う訓練なども実施しました。

あらゆる状況を想定した訓練を実施し災害時に備えると共に、訓練結果をもとに課題の抽出を行い、持続的に質の高い防災体制を構築していきます。



支援物資要請に対応するシミュレーション訓練



二次災害防止のため
危険箇所への立ち入り禁止措置を講じる訓練

災害復旧 i-con奨励賞を受賞した取り組み

北海道厚真町の厚真ダム災害復旧工事にて、コンクリート工におけるi-Constructionの取り組みとして「プレキャスト埋設型枠の使用」を実施しました。取水放流施設工の型枠にプレキャスト埋設型枠を使用することで、施工効率が向上し工期短縮を実現、災害リスクも低減しました。

型枠は通常、木材で製作しますが、「プレキャスト型枠」は繊維を練り込んだ超高強度繊維補強コンクリートの埋設パネルを組み合わせてボルトで固定するため、熟練の作業員(大工等)以外でも設置作業が可能となります。

また、脱型枠・外部足場・型枠支保工も不要となることで、省人化・省力化にも資する取り組みとなり、これらが評価され、i-con奨励賞を受賞しました。

最大震度7を観測した北海道胆振東部地震では大規模な斜面崩壊の発生に伴い多くのインフラ施設などが被災しました。

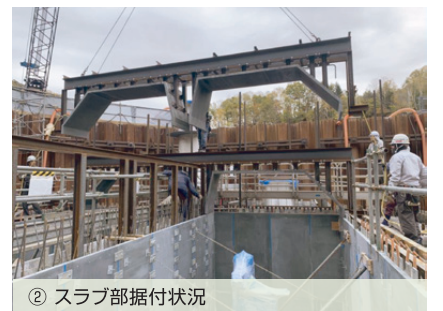
当社は早期のインフラ復旧を目指すため、災害直後から様々な復旧活動に従事してきました。災害復旧工事は緊急を要する工事となるため、現場状況に応じて施工班の増加や昼・夜間での施工など、難しい工程管理が必要とされる場面も生じます。

しかし私たちは、どんな状況下でも安全に無災害で施工するため、ICT技術を活用した作業の省力化や生産性の向上を意識し、安全に早期復旧を目指せるよう日々努力を重ねています。

水田の多い厚真町ではダムは重要な水源であり、早期の復旧が望まれています。私たちはこれからも、地域の安全・安心と災害からの早期の復旧復興を目指し、挑戦を続けます。



① 壁部設置完了



② スラブ部据付状況



③ スラブ部設置完了

災害復旧工事にも
環境配慮型重機の使用を推進しています

メリット

最新規制をクリアした新型の重機を使用することにより、より環境に配慮した作業を行うことができる

CO₂削減にも貢献

低燃費油圧システム
「SSC」搭載油圧ショベル



省エネ油圧システム
「TRIAS」搭載油圧ショベル

